入選

## 小さな親切

島根県　松江市立義務教育学校八束学園　四年
伊藤　恵理

国語辞典に、「親切」とは、『思いやりが深く、心をこめて人につくすこと』と書かれています。私が「思いやり」という言葉を知ったのは、ようち園の年長組のときでした。

安来（やすぎ）のアルテピアで、歌手の藤田恵美さんといっしょに、クラスのみんなで『思いやりのうた』を手話を使って歌うコンサートに参加したことからでした。

コンサートまでに、先生から「思いやり」が相手の気持ちになって考えることだということや、手話が耳の聞こえない人の言葉だと教えてもらいました。

私は、それまで耳が聞こえない人がおられて、その人たちは、話をされるのも私たちのようにふつうにしゃべったりできない、ということを知りませんでした。耳が聞こえなかったら、人が何をしゃべっているのかもわかりません。手話は、本当に大事なものだと思いました。

最近、久しぶりに藤田さんが手話をしながら『思いやりのうた』を歌っている動画を見てみました。歌の歌詞も手話も、とてもなつかしく思い出されました。

その中で、私が好きなところは、

『ありがとうって言われたら、なぜかうれしくなったよ。思いやりは、世界を幸せにするまほう』

というところです。

「思いやり」という言葉を表す手話も、自分が今持っている心をなでるようにして表します。

この手話をしながら、ようち園のとき、「思いやり」とは人にやさしくすることなのだ、と感じたことを思い出しました。

私も、人にやさしくしてもらって、とてもうれしかったことがあります。それは、1 年生になるとき、安来から転入して学校でほとんど知らない人ばかりで、不安だったときのことでした。

大きい学年の人たちが、自分から「恵理ちゃん」と声をかけてくれました。3 年生の人たち、5 年生の人たち、6 年生や 7 年生の人たちまでもが、校庭で遊ぼうとしている私に、ブランコでいっしょに遊んでくれたり、教室にも様子を見に来てくれたりしました。

たてわり班のそうじでいっしょの大きいお兄さんたちも、そうじのときはもちろん、学校の中で出会ったときも声をかけてくれたりしました。不安でいっぱいだった私は、そのことがとてもうれしかったことを覚えています。

私もこれから、自分の方からこまっている人に、声をかけてあげられる人になりたい、と思いました。前期ブロックのリーダーとして、下の学年の子どもたちや、手話で学んだように、しょうがいを持っておられる方など、自分ができることをやってあげようと思います。

声をかけてあげること、それが「小さな親切」だと思います。「ありがとう」と言ってもらえたら、きっとうれしいし、自分も幸せな気持ちになれると思うからです。